

雪椿通信

NOM



エドゥアール・ヴュイヤール
《風景と室内》～9.ヨーロッパ橋で
1899年刊行

作家はパリに育ち、1889年モーリス・ドニの誘いで若い美術家のグループ「ナビ派」に参加しました。アンチミスト(親密派)と呼ばれ、身近な人々や室内、都市風俗などを温かな色使いで描いたことで知られています。本作には橋を渡る二人の少女が描かれ、一人は大きな人形を、もう一人は傘を手にしています。ヨーロッパ橋はパリのサン・ラザール駅近くの高架橋で、その名は、橋から放射線状に伸びた通りにヨーロッパの各都市の名前がつけられていることに由来します。当館ではこの《風景と室内》を含め、「ヴォラール・セット」と呼ばれる3つの石版画集(ほかにボナール《パリ生活の諸相》とドニ《アムール》)を所蔵しています。

- 特集：
15周年記念コレクション展～近代美術館のあゆみ P.2-3
- 特集：
マティスヒルオーの半世紀にわたる友情を観る P.4
- 新収蔵品紹介：
平成19年度の新収蔵品
～人間国宝 三浦小平二の青磁 そして多彩な県出身作家たち～ P.5
- 美術雑筆：造像銘記～彫刻史研究の基礎資料～ P.6
- あしあと：教育普及活動報告 P.7
- イベント情報 P.8

開館15周年 魅せます!コレクション 「健康優良児、それとも……」

新潟県立近代美術館は今年の7月15日で開館15周年を迎えます。人間で言えば15歳。やっと中学3年生になったところです。この中学生は一体どんな子供で、どのくらい成長したのでしょうか。それを見ていただくために企画されたのが、この展覧会「魅せます!コレクション」です。

美術館活動の根幹となるのは、やはりコレクション、つまり所蔵品です。優れた作品を集め、保存し、研究を深めながら次世代に伝えていくことは美術館の基本的な仕事ですが、傍からはどのように作品を集めているのかなかなか見え難いところがあります。

当県で15年前に近代美術館が立ち上がり、これから作品を収集していくための方針として掲げられたのは、「世界の美術」「日本の美術」「新潟の美術」の3本柱でした。「新潟の美術」は、言うまでもなく新潟県に関連のある作家の作品を集めようということですが、「日本の美術」では、古美術や現代美術には向かわず、まず近代美術を対象にしました。そして、近代の「日本の美術」に影響を与えた「世界の美術」を集めていこうという心積もりでした。

収集当初にそのような大きな見取り図を描き出せたのは、新潟県立近代美術館の前身に、1967(昭和42)年11月新潟市に開館した新潟県美術博物館があったことによります。その時代に収集された作品群は大いなる遺産として当館に受け継がれています。その中で、今でもコレクションの最重要の核のひとつになっているのが、1981(昭和56)年度に購入された、いわゆる「^{たいこう}大光コレクション」の近代洋画の数々です〔図1〕。かつて長岡の大光相互銀行が所有していたコレクションの規模は、近代洋画だけでもなく、日本美術のみでもありませんでした。今や各地の美術館の目玉作品となっている海外の名品が含まれていたことは、15年前の開館記念展で紹介いたしましたとおりです。総体として購入されなかったことは残念至極ですが、それでも当館に収藏された作品群はどうでしょうか。もう一度改めて見直すことで、当館のコレクションの中での意義を改めて確認していただければありがたいと思っています。



〔図1〕 岸田劉生《冬枯れの道路(原宿附近写生)》1916年

さらに、近代美術館になってから本格的に集め始められた「世界の美術」では、主に日本美術との関わりからナビ派〔図2〕やドイツ表現主義の作品を集めようと試みてきました。た



〔図2〕 ランソン《収穫する7人の女性》1895年



〔図3〕 デューラー《メレンコリア!》
1514年(前期展示)

だ、「世界」は広く、油彩画の名品は簡単には集められません。それで、版画に限っては時代の幅を大きく取り、デューラーの《メレンコリア!》〔図3〕に始まりゴヤまでの作品を揃えてきました。といっても、両巨匠の間にまだまだ重要な作家が多く残されていることは承知ですが、個性的で質の高いコレクションへの足がかりはできたのではないでしょうか。

作品の収集活動は地味なものです。先に述べましたように心に描く図柄はあるのですが、それはあまりに大きく、遠い先にあるものです。莫大な資金さえあれば、作品を集めること、それも短期間で成し遂げることは容易かもしれません。しかし、それにしても、まずは作品やその所在などについての情報がなければどうにもなりません。最終的に美術館のコレクションに収まるまでには、来歴や価格に問題がないかどうかといった基本的なことは言うまでもなく吟味されますが、やはり重要なのは、作品自体が持つ意味であり、さらに、コレクションの中での位置づけです。そういう幾多の条件が一致しない限り、特に購入の場合には、作品が収藏されることはありません。素晴らしい作品は、それ1点だけでも魅力的ですが、コレクションの中で相応しい位置を与えられ、作品が相互に関連し始め

ると、より生き生きと輝きを増して見えます。ただし、当館のコレクションの現状では、まだいくつかの作品がまばらに散っているような部分が多くあり、夜空に浮かぶ大小様々な星を結んでイメージを思い描いていた古人の営みに近いようなところがあります。それでも、作品同士がネットワークを密にし、コレクションのイメージが明確になるように、そしてコレクションの質が上がるよう、心がけて作品を集めています。

例えば、上越出身の小林古径(1883-1957)の《雨》(1917)【図4】。この作品はコレクション草創期の1973(昭和48)年度に購入されたもので、元の所有者は同じく日本画家の奥村土牛(1889-1990)でした。美術博物館が建ったのち「新潟に古径作品がなくては……」ということで手放してくれたのです。土牛は16歳で梶田半吉に入門し、そこで当時塾頭だった古径に兄事し、その後長く指導を仰いでいました。その土牛のほうですが、新潟では、なかなかよい作品に巡り合うことができませんでした。最終的に《少女図》(1926／前期展示)と縁が結ばれるまでには、1996(平成8)年まで20年以上も待たなければなりませんでした。

あるいは、近代彫刻の父とも言われるロダンの有名な《考える人》【図5】。時々お客様から本物なのかと問われることがありますが、ロダン生前に鋳造されたうちの一體です。上体を捻りながら肘をつく姿勢はロダンの独創ですが、頬杖をつくポーズは、西洋では定型のメランコリー(憂鬱)を示す図像を踏まえています。その考え方の源泉をさかのぼりますと、ルネサンス期までたどることができます。当時、人間の四気質の中で非活動的でマイナス要因とされた憂鬱質が、沈思黙考を



【図4】 小林古径《雨》1917年(前期展示)

必要不可欠とする芸術家や学者の精神的作業と結び付けられ、価値が逆転されたのでした。ですから、《考える人》と《メレンコリアI》【図3】は、彫刻と版画であり、また、時代も地域もかけ離れていますが、二人の芸術家を代表する作品というだけでなく、それぞれが血脉を通じているのです。



【図5】 ロダン《考える人》1880年

さて、先の中学生、親の遺伝子を受け継いで健やかに育ったようですが、皆様の目にはどのように映っていますでしょうか。標準以上の健康優良児とは思えませんが、かといって貧弱でもなさそうです。自分に足りないところは自覚していますし、意欲もあります。まずは5年後の成人式の姿が楽しみでもあります。今では10歳下に万代島美術館という名の弟(妹)もでき、最近の作品もコレクションされました。今後も二人そろって体格=コレクションを向上させるには十分な栄養=予算が必要です。しかしながら、このところは状況も厳しくなかなか自発的には思うようになりません。そういう中、貴重な作品のご寄贈の申し出をいただく機会が増えています。多くの方々からのご理解とご協力のありがたさを痛感しています。

(学芸課長代理 桐原 浩)

開館15周年 魅せます!コレクション 新潟県立近代美術館・万代島美術館の名作から

会期 2008年4月12日㈯～6月15日㈰

(月曜休館、ただし4月28日、5月5日、6月9日を除く)

※会期中展示替えを行います

※前期4月12日から5月11日まで/後期5月13日から6月15日まで

観覧料 一般600円(500円) 大学・高校生300円(200円)

※平成20年度より小中生は無料

※()内は20名様以上の団体料金

※障害者手帳をお持ちの方は無料(受付でご提示ください)

●ワークショップ <発見! ひじゅつかん> 参加無料

5月 4日㈰ 午後2時～ エントランス集合

「あなたの知らない美術館」

5月 18日㈰ 午後2時～ エントランス集合

「クイズで読み解くコレクション」

5月 25日㈰ 午後2時～ 当館講堂

トークショー「開館15周年 私にとっての美術館」

●美術鑑賞講座 講師無料 当館講堂

4月26日㈯ 午後2時～

「話します!コレクションの成り立ちI 西洋美術編」(当館学芸課長代理 桐原 浩)

5月 3日㈯ 午後2時～

「話します!コレクションの成り立ちII 日本美術編」(当館副館長 横山秀樹)

6月 7日㈯ 午後2時～

「佐渡の人間国宝 三浦小平二～人と作品～」(当館主任学芸員 宮下東子)

●映画鑑賞会 鑑賞無料 当館講堂

5月10日㈯ 午前10時～/午後2時～

「お茶漬の味」小津安二郎監督 1952年

マティスとルオーの半世紀にわたる友情を観る

20世紀前半のフランスを代表する二人の画家、アンリ・マティス（1869-1954）とジョルジュ・ルオー（1871-1958）。彼らが互いに自らのスタイルを確立しつつあった1905年頃、美術の世界では新しい芸術動向が次々と出現し、サロン・ドートンヌに出品されたマティスの作品は「フォーヴィズム（野獣派）」と評されました。同じ展覧会にルオーも出品しており、その荒々しいタッチがマティスたちの激しい色遣いの作品と混同され、彼もしばしばフォーヴィズムの画家とみなされてきました。しかし、色彩とデッサンによる形態的な美を追求したマティスと、濃密な画面の中に深い精神性を求めたルオーに造形上の共通性を見いだすことは難しく、二人を結びつけて語ることはこれまでほとんどありませんでした。

ところが、二人はともに世紀末象徴主義の画家ギュスターヴ・モローの教室で若い才気を養い、その後の新しい絵画の道を切り開く自由な創作に開眼しました。また、この頃から二人の親密な交友関係が生涯にわたって続いていたことが、近年発見された往復書簡から明らかになってきました。展覧会では、同一テーマの作品を対比しながら展観することで、互いの道をたどったようにみえる二人にどのような共通点あるいは相違点がみられるのかを探ります。第一章のモロー教室時代の作品からはじまり、第二章以降は、アトリエのモデル、田園風景、サーカス、キリスト教的風景といった共通テーマごとの作品の対比が続き、最終章では二人がともに関わった美術雑誌『ヴェルヴ』やボードレールの『悪の華』の挿絵といった同一素材による全く異なる創作をご覧いただきます。こうしたテーマごとの展示によって、個展ではみられなかった両者の作品の共鳴が明らかになることでしょう。

本展の重要なコンセプトである二人の往復書簡を整理された、ルオーのご遺族でジョルジュ・ルオー財團理事長のジャン=イヴ・ルオー氏に、今回の展覧会についてお話を聞いてみました。

——ルオーとマティスはどのような関係だったのでしょうか。

二人の往復書簡は1906年にはじまり、1930年代のマティス



アンリ・マティス
《刺繍椅子のオダリスク》
1928年
パリ市立近代美術館

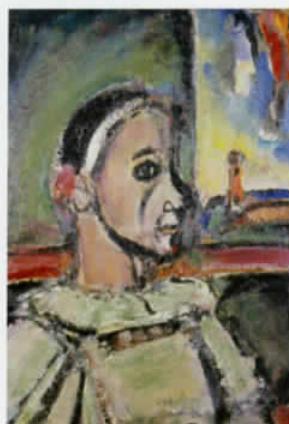
© 2008 Succession H.Matisse, Paris / SPDA, Tokyo
© Musée d'Art Moderne / Roger-Viollet

の息子・ピエール・マティス（ニューヨークで画廊を営んでいた）とルオーの関係から最晩年の1953年頃まで、家族同士の付き合いも含めて生涯にわたって続きました。

それは、芸術上の同志やライバルといった「職業上」の関係というよりも、むしろ純粋な「友情」としての関係であったと思います。両者はモローという偉大なる師を通して、各々の道を進むことを厭わなかったのです。

——今回の展覧会を見る新潟の皆さんにメッセージをお願いします。

本展覧会は、二人の巨匠の友情をテーマとした例外的な機会です。これまでにもマティスとピカソなど、二人の芸術家の関係をテーマにした展覧会はありましたが、それはあくまでも芸術上の形式的な比較でしかありませんでした。それに対して、マティスとルオーは家族ぐるみで付き合い、また生涯心を許しあった友人でした。その意味でも、この二人の関係を皆さんに広く知ってもらいたいと思います。



ジョルジュ・ルオー《ピエロ》1937年頃
パリ市立近代美術館

© ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2008
© Musée d'Art Moderne / Roger-Viollet



ジャン=イヴ・ルオー氏（父のルオー財團にて）

（写真撮影：吉川義行）

（撮影協力：ルオー財團）

（撮影協力：パリ市立近代美術館）

平成19年度の新収蔵品

～人間国宝 三浦小平二の青磁 そして多彩な県出身作家たち～

ここ数年、当館には、新潟県出身・ゆかりの作家の作品が多く寄贈されています。

平成19年度も例外ではありません。日本画壇を代表する画家横山操の作品10点をはじめとして、大正から昭和初期にかけて地元長岡で活躍した竹内蘆風や南宋画に天分を發揮した横尾深林人、蒲原を描いた佐藤哲三、日本美術院で活躍中の大矢紀、同じく日本美術院で土俗的な絵を描いた小島丹漾や朱鷺の画家長井亮之のスケッチ類、工芸の亀倉蒲舟と亀倉康之、書の良寛、會津八一など、多くの県出身作家の作品が収蔵されました。

県外作家では、明治期の代表的な花鳥画家瀧和亭、昭和戦前期の水彩画家荒谷直之介、現代日本の代表的なデザイナーの一人松永真のポスターなどが入りましたが、江戸生まれである瀧和亭の軸装作品も、北越地方を放浪していた若い頃、冬の越後で描かれたゆかりの作品です。

中でも、青磁で重要無形文化財保持者に認定され、一昨年逝去した佐渡出身の三浦小平二の青磁・陶器が16点というまとまった数で収蔵されたのは注目されるところでしょう。

16点の作品には、小平二の創作活動の流れをみることができます。伝統的な技法を多岐にわたって手がけていた初期の作品。青磁に魅入られ格闘を続けながらも、伝統から離れ

るために訪れた東アフリカへの旅によってもたらされた新境地「マサイ」シリーズ。故郷である佐渡の赤土「無名異土」を使うことで完成した深みのある青磁。そして、青磁と色絵を併用・調和させるという至難の技を用いた作品です。造形や描かれた絵に表れているのは、どれも異国の風景。しかも日本人が長い間憧れてきたヨーロッパではなく、インドやシルクロードなどアジアの姿です。この作品群は、常設展「新収蔵品展」で4月12日から7月6日まで展示されます。



三浦小平二《青磁蓋物「ラジャスタン文」》1991年

◆平成19年度新収蔵作品一覧

○日本の美術

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法・形狀
日本画	瀧和亭	着色牡丹孔雀図	1857年	紙本彩色・軸装
水彩	荒谷直之介	婦人像	1940年	紙・水彩・額装
デザイン	松永真	ポスター40点	1994-2007年	紙
資料	松永真	ISSMOW「Katachikoh」パッケージ11点	2006年	紙

○新潟の美術

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法・形狀
日本画	竹内蘆風	極彩色孔雀図	1926年	絹本彩色・軸装
		春江待渡之図	1928年	絹本彩色・軸装
	横尾深林人	鶴	不明	紙本彩色・額装
		北畔	1976年	紙本彩色・額装
		清韻	1994年	紙本彩色・額装
		煌	2005年	紙本彩色・額装
	横山操	燈台	1959年	布本彩色・額装
		月齋	1959年	布本彩色・額装
		炎々桜島	1959年頃	紙本彩色・額装
		舞れる丘	1959年頃	紙本彩色・額装
		波濤	1960年	紙本彩色・額装
		流星	1960年	布本彩色・額装
		湖映	1960年	紙本彩色・額装
		富士	1960年頃	布本彩色・額装
書	良寛	白雲抱幽石	不明	紙本墨書・軸装
	會津八一	江山清趣	1950年代	紙本墨書・額装
	佐藤哲三	越後の晚秋(鴻沼村を望む)	1935年	油彩・キャンバス
工芸	三浦小平二	青磁薺豆彩大皿「ラジャスタン」	2003年	青磁

分類	作家名	作品名	制作年	素材・技法・形狀
工芸	三浦小平二	志野麦文皿	1963年	陶器
		鉄繪土瓶・汲出「D51」	1967年	陶器
		染付釉裏紅「船窓」	1967年	磁器
		焼きしめマサイ文カップ	1970年	陶器
		焼きしめマサイ文皿	1970年	陶器
		焼きしめ花瓶「マサイ」	1970年	陶器
		釣窓花瓶	1973年	陶器
		釣窓急須	1973年	陶器
		釉裏紅大皿「魚文」	1975年	磁器
	亀倉蒲舟	紫紅釉茶盤	1986年	青磁
		青磁豆彩 茶入れ 中国舞姫文	1987年	青磁
資料	亀倉康之	青磁蓋物「ラジャスタン文」	1991年	青磁
		青磁花瓶「バオバブの木」	1991年	陶器
		青磁飾り壺「インド虎」	2003年	青磁
		青磁飾り壺「シルクロード」	2003年	青磁
資料	三浦小平二	黄銅鸕文飾箱	1937年	彫金・黄銅
		門	1975年	彫金・銅・金銀彩
		黄鶴詩抄	1980年	彫金・銅・金彩
		枯野	1978年	打ち出し・アルミニウム
資料	亀倉康之	日本海	1993年	ガラス技法・アルミニウム
		白い馬	1997年	打ち出し・アルミニウム
		トルコにて 水汲み	1989年	紙本彩色・輪装
資料	三浦小平二	イエメンにて ジャンピアの踊り	1989年	紙本彩色・輪装
		イエメンにて 仲よし	2006年	木版画・額装
		カザルーンにて 大地の少年	2006年	木版画・額装
		アフガニスタンにて ヘラートへの道	2006年	木版画・額装
		小島丹漾	1940-70年代	まぐり
資料	長井亮之	下絵17点	不明	冊子
		スケッチブック12冊	不明	冊子

造像銘記～彫刻史研究の基礎資料～

新潟県立近代美術館長 水野 敬三郎

私が年來かかわっている仕事に『日本彫刻史基礎資料集成』(中央公論美術出版刊)の編纂があります。これは日本彫刻史研究の草分け的存在である丸尾彰三郎先生を中心にしての弟子達が集まり、私もその末席に連なって、先生が多年収集した写真や調書などをもとに彫刻史研究のための基礎資料を順次刊行すべく、まず平安時代造像銘記篇にとりかかったのがその始めでした。昭和41年、もう40年以上前のことです。

造像銘記というのは、像の一部に直接、あるいは像内に納入した品に、その像をいつ誰が、どんな事情があつて造るのか、造ることでどんな功徳を期待するのか、などを書付けたもので、作者(仏師)の名前が記される場合もあります。つまり造像事情、信仰内容、作家や流派、編年、様式変遷など、あらゆる彫刻史的研究の基礎となる資料なのです。造像銘記をもつ作品に関する詳しく述べた正確な情報を誰もが共有し、活用できるように刊行することが、彫刻史研究の発展のために欠かせないことです。

平安時代造像銘記篇全8巻に引き続き、昭和48年からは平安時代重要作品篇を刊行しました。平安時代には、たとえば平等院鳳凰堂阿弥陀如来像のように富裕な上級貴族が一堂の本尊として造った像では、いわば像に魂を籠める意味合いで像内に心月輪を納入することが行われ、その場合には内削りした像内を神聖な仏の体内そのものと見なしたのです。そこには先に述べたような俗世にかかわる内容の造像銘記は入りこむ余地はありません。その内容は願文として紙に記され、供養に際して読み上げられました。つまりこの時期に造像銘記が記されるのは略式のやり方ともいえます。平安時代彫刻史研究の基礎資料として、記録に残るような第一級の本格的な造像を対象とする重要作品篇が必要となった所以です。その刊行はいろいろな事情による中断もあり、全5巻の完成を見たのは丸尾先生や初めからの編纂者のうちのお二人も故人となっていた平成9年でした。

それ以前から私達は鎌倉時代造像銘記篇のための資料収集を行っていましたが、準備が整いその第1巻を刊行できたのは平成15年でした。以後毎年1巻ずつで、先日第6巻ができ上がったところです。この時代になると仏像、あるいは仏像の像内に関する意識に変化を生じ、第一級の本格的造像の場合にも願文の納入が抵抗なく行われ、像内は発願者の願いを彼岸の仏に伝えるための空間となつたといえます。また仏師にも主体的な意識が芽生えて、仏像への作者の署名が次第に一般的となりました。運慶その他一流仏師の名が銘記中に見られるようになるのもこの時代からです。従つてこの時代では重要作品篇は必要なく、造像銘記篇だけで第一級の作品もカバーできます。それだけに収録すべき作品は数多く、完結には最低でもまだ10年はかかりそうです(もっとも銘記は調査や

像の解体修理の際の新たな発見も屢々ですから、ほんとうの意味での完成はありません)。私としてもなるべく節制して、できる限り長くこの仕事にかかわりたいと思っています。

新潟県内にも鎌倉時代の造像銘記をもつ仏像があります。一番古いのは魚沼市内円福寺の阿弥陀如来像で、建保2年(1214)の銘、次は南魚沼市の源義経伝説に因む「君帰觀音」の名で知られる聖觀音菩薩像で、承久2年(1220)の銘があります。二像とも造像銘記篇の第3巻に収録しましたが、いずれもこの時代としては保守的な作風で、一本造りという古風な造り方です。銘文がなければ製作年代の判定に苦しむところです。この地方で造られたと思われる仏像(たとえば耳の特異な彫癖から君帰觀音と同作と考えられる南魚沼市天昌寺聖觀音像)の年代を考える上で大変重要な材料となります。この時代後半には佐渡市蓮華峰寺五智如来像のうち阿弥陀如来像に建治2年(1276)大仏師尾張公是心の作であることを示す銘があります。この年代はまだちょっと先になりますが、いずれ収録させていただくことになります。



聖觀音菩薩立像 南魚沼市觀音寺



同像内体部背面墨書き

アートボランティア開始に向けて

美術館の今にふれる、参加する！

当館では、来館者に対する生涯学習機会の増大とサービスの向上を図るために、平成20年4月から新たに新潟県立近代美術館アートボランティアによる活動を行うこととなり、平成20年1月25日(金)～平成20年2月20日(水)の期間、募集を行いました。

すでに「新潟県立美術館友の会」が活動しており、ボランティア活動を行ってきましたが、今後も協力していきます。また、いろいろな展覧会やワークショップにおいても、ボランティア活動を呼びかけ、その時々に多大な理解と協力を得てきました。

今回の募集は、計画的・継続的なボランティア活動を行うためのものであり、「来館者の生涯学習の機会と場を提供する」「美術館の活動を共有し、美術館への関心とかかわりを深めることにより、美術館の爱好者を増大する」という、2つの大きなねらいを設けています。

美術館でのボランティアに参加する方にとっては、来館者としてだけではなく、もう一步踏み込んで美術館を体感でき、キヤッチフレーズにもあるように「美術館の今にふれる、参加する！」ことのできる、またとない絶好のチャンスとなります。

アートボランティアって何をするの…… 主な活動内容

主な活動内容としては、次のようなものがあります。

1. 当館がお願いする活動

(1) ポスター・チラシの掲示・配布

当館で行う展覧会や催し等のポスター・チラシの各地域での掲示など

(2) ワークショップの実施補助・企画

年間スケジュールに基づいて行うワークショップや企画展・常設展に関連して実施するワークショップ・体験コーナー等での補助・企画等

(3) 講演会などの補助

講演会、美術鑑賞講座、映画鑑賞会、その他美術館が行う事業などの補助

(4) 館内案内・展示品解説

来館した児童・生徒、高齢者、障害のある方々を中心に一般来館者で希望される方々に対しての館内・展示室等のご案内、展示品の解説

(5) その他、当館がお願いする活動

2. アートボランティアの方々が企画して行う活動

当館に来館されるお客様にとって意義深い企画を立案し、当館と協議の上、実施する活動

3. アートボランティアの方々が活動する上で必要な事務の運営

ボランティアが活動を円滑に行うため、ボランティア同士の連絡、ボランティアと当館との連絡などの自主的な活動

そのほか、活動日は開館日を基本とし、都合のつく日、原則として1日の活動時間は、午前10時から午後5時までの範囲です。(半日も可)。一年間を登録期間としますが、やむをえない事情が生じた場合は、途中辞退することもできます。

実際の活動は、4月からになりますが、活動内容がたくさんあり、少しづつ活動していきたいと思います。

来館者とボランティアとの出会いや活動の輪が広がり、コミュニケーションが活発になり、これまで以上に美術館利用が豊かなものになることを願ってやみません。

来館した折には、気軽に声をかけたり、活動の輪に参加されたりすることを望んでいます。

なお、応募者が応募人数に満たなかったため、「随時募集」としました。関心のある方は、是非ご参加ください。詳しくは、受付・事務室までお問い合わせください。(電話0258-28-4112 学芸課ボランティア担当)

(学芸課長代理 池上秀敏)

ボランティア募集のポスター

平成20年度 参加者募集中

美術館の今にふれる、
参加する！

美術館で
アートボランティアに
参加してみませんか

ポスター・チラシ掲示・配布、
ワークショップ・解説会、
美術講座の実施補助等

興味のある方、ご応募ください。

募集要項はホームページ・受付・事務室で入手できます。

新潟県立近代美術館

イベント情報

2008年4月～9月

企画展

- 4/12(土)～6/15(日)
開館15周年 魅せます!コレクション
～新潟県立近代美術館・万代島美術館の名作から～
7/5(土)～8/31(日)
マティスヒルオー ～素晴らしい芸術への共感～
9/13(土)～10/19(日)
国宝との出会い～京都国立博物館収蔵品による～①

所蔵品展示

- 2/15(金)～4/8(火) 画家たちの青春
4/12(土)～7/6(日) 新収蔵品展～平成18・19年度収蔵品による～
7/10(木)～10/19(日) こどもの世界～遊びにおいて、美術館へ～②



①国宝《山越阿弥陀図》鎌倉時代
(13世紀)



②佐善 明《ボブの教え子》1978年

映画鑑賞会

- (無料／講堂／①午前10時～ ②午後2時～)

5/10(土) 小津安二郎監督「お茶漬の味」

こどもアート・ミュージアム(作品展・ワークショップ)

- 8/9(土)～8/13(水) (無料／2Fギャラリー)

万代島美術館情報

- 相澤コレクション「そばにおきたい絵」(4月5日～5月11日) ③
■写真・昭和の肖像1945-1989(5月24日～7月27日)
■ボーラ美術館コレクション展(8月9日～10月5日) ④



③古賀春江《花》制作年不明



The Niigata Bandaijima Art Museum
新潟県立万代島美術館

〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1 (朱鷺メッセ内 万代島ビル5F)
TEL025-290-6655 FAX025-249-7577 <http://www.lalanel.gr.jp/banbi/>

ミュージアムショップKINBIより おすすめ商品のご案内

丈夫で発色の良く便利なフェルト製のグッズが2種類入荷しました。



- ABITAX®
②エクストラポケット(L) ¥3,465
(デジタルカメラや携帯ケースに。)
⑤キーケース(S) ¥2,835
(約4本の鍵を収納できます。)
※中央のムンクキーチェーン ¥710
皆様のご来店を心よりお待ちしております。

ミュージアムショップ KINBI TEL0258-28-2200

共催展

- 6/19(木)～6/29(日) 県展「長岡展」

- 美術鑑賞講座 (聴講無料／講堂／午後2時～)
4/26(土) 「話します!コレクションの成り立ちI西洋美術編」
(学芸課長代理 桐原浩)
5/3(土) 「話します!コレクションの成り立ちII日本美術編」
(副館長 横山秀樹)
6/7(土) 「佐渡の人間国宝 三浦小平二～人と作品～」
(主任学芸員 宮下東子)
7/12(土) 「マティスヒルオー：巨匠を支えた陰の立役者たち」
(主任学芸員 渡田真由美)
7/26(土) 「ジョルジュ・ルオーの魅力：線と色彩」
(主任学芸員 平石昌子)
9/6(土) 「長岡出身の洋画家 小山正太郎」
(学芸課長 長谷川重雄)

ワークショップ (参加無料／エントランス集合／午後2時～)

- ◆「ひじゅつ☆体験隊」
7/6(日) 野外彫刻であそぼう
7/20(日) マティスの切り絵に迫る
7/27(日) ロダンのポーズに迫る
8/10(日) 親子でアートI
8/17(日) 親子でアートII
9/28(日) 国宝の秘密に迫る
◆「発見!ひじゅつかん」
5/4(日) あなたの知らない美術館
5/18(日) クイズで読み解くコレクション
5/25(日) トークショー「開館15周年 私にとっての美術館」
7/13(日) ルオーのピエロを探せ
9/14(日) ギャラリートーク「こどもの世界」

利用案内(4月～9月)

■開館時間／

午前9時～午後5時 (4月～12月12日の毎週金曜日は午後6時30分まで)
※観覧券の販売は閉館30分前まで

●レストラン

午前10時～午後5時 (4月～12月12日の毎週金曜日は午後6時30分まで)
※ラストオーダー
(食事) 午後4時 (4月～12月12日の毎週金曜日は午後5時50分まで)
(飲物) 午後4時30分 (4月～12月12日の毎週金曜日は午後6時10分まで)

●ミュージアムショップ

午前9時～午後5時 (4月～12月12日の毎週金曜日は午後6時30分まで)

■休館日／月曜日 ※ただし月曜が祝日の場合は開館します。 4/28、5/5、6/9・23、7/7・14・21・28、8/4・11・18・25、 9/15・22・29の月曜は開館します。 ※4/9(月)～4/11(水)は展示替のため休館します。

■観覧料金

●企画展

企画展によって観覧料が異なります。
小学・中学・中等教育 [前期] / 無料
なお、企画展の観覧料で、展示室1・2・3もご覧になれます。

●常設展示室1・2・3

- ・一般 / 420円 (340円)
- ・中等教育 [後期] ・高校・高等専門・大学 / 200円 (160円)
- ※学生証を提示してください。
- ・小学・中学・中等教育 [前期] / 無料
- ※()内は20名以上の団体料金です。
- ※障害者手帳をお持ちの方は無料になります (受付にて手帳をご提示ください)。

新潟県立近代美術館たより 雪椿通信 第30号

編集・発行 THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14
TEL0258-28-4111㈹ FAX0258-28-4115
<http://www.lalanel.gr.jp/kinbi/> e-mail kinbi@coral.ocn.ne.jp

制作・印刷 株式会社中央印刷
(〒940-0041 長岡市学校町1-9-21 TEL0258-35-3500)

発行日 2008年3月25日